

# 税と向き合う

神奈川県立小田原高等学校

一年 伊藤綾香

「消費税率の引き上げ」という言葉を最近耳にすることが多くなりました。消費税とは赤ちゃんから大人まで物を買う時に誰もが払う一番身近な税金です。今までの私は5%も払うなんて…と思っていました。しかし、それは税についての知識や理解が十分ではなかったからだだと気付きました。

ゴミの収集や病院で受診した時の医療費などは税金によって賄われています。また、救急車を呼んでもお金を払わなくて良いのは税金があるおかげです。もし税金というものがなくなったら、今まで当たり前だと思っていたことや公共サービスが当たり前ではなくなります。アメリカのように救急車をよぶのにお金がかかってしまうかもしれません。また、町中がゴミであふれかえってしまうかもしれません。今回の租税教室を通して税金が何に使われているか、自分たちの生活にどのように関わっているのかがよく分かりました。私たちのために税金が使われていることが実感できれば、納税義務を果たさない人もいなくなるのではないかと思いました。

世界は常に変わつていくので、時とともに消費税率が変わつてもそれは普通のことです。けれど、ただ消費税率が10%上がると言われただけでは腑に落ちない所があるのは当然です。だからと言って、私たち消費者が受身になつて説明を待つていても答えは返つてきません。私たち自身が自発的に税について関心を持ち、知識を増やしていく必要があります。また、全ての人が平等に税を負担し、払っている金額に相応する公共サービスや公的支援などが受けられるように、消費者である私たちが税に関する仕事に就いている人々、公務員など国民一人ひとりが考え、そしてその考えを共有することが大切だと思います。それが未来を明るくするための第一歩であると考え、そうであることを願います。